

## 5章 地域における図書・情報システムの拡充

### —(大学図書館を中心として)—

板倉 英吾

#### 1節 大学図書館の役割

##### (1) 大学図書館の理念・目的・機構・活動・運営

現在、国立大学において大学改革の大方針に則った大学の機構や機能などの見直しが行われている。図書館においてもその役割を再認識しなければならない時代である。図書館の理念・目的等として以下のことが考えられる。

- 1) 図書館の大学および社会における位置づけは、大学教職員や学生が教育、研究、および学習を行う上で機能上の中心をなすべき機関（施設）である。
- 2) 図書館の目的とそのための主な活動は、大学教職員や学生の教育、研究、および学習に必要な学術的情報や資料の、収集および集積、整理および保存、必要に応じた解析、アクセスシステムの完備、ならびに利用者が入手した各種資料の閲覧、読書、学習、情報処理、考察などを行うための設備と場所の提供である。さらに開かれた図書館として、その機能を地域の住民へ公開する。利用者への公開とともに地域のニーズに応じた協力活動も行う。必要に応じ学外における各図書館とも連携活動を行う。また各種資料の供覧や催し物等を通して文化（学術、芸術、スポーツ等）に関する情報を広く一般に公開し、学習の便宜や啓蒙を図る。
- 3) 図書館における情報とは、書籍をはじめとする各種資料、学術雑誌、各種メディアを通して得られる学術情報の凡てを含む。図書館では情報収集の手段として電子メディア等による情報システムを利用するので情報センターの機能とも一部重なるが、情報システムそのものの開発が目的ではない。また図書館が情報センターと異なる特徴の一つは、前述のごとく利用

者が情報処理やその解析の考察を行うための場所の提供である。

- 4) 必要に応じて図書館独自の研究活動や事業を行い、また国際協力も行う。
- 5) 必要に応じて情報の発信および広報活動を行う。

また研究者や学生の専攻が文科系と理科系とでは図書館の機能、役割に対する期待内容がおのずから異なるので、運営上その認識と調整が必要である。また電子図書館として如何に効率よく機能するかを常に研究しなければならない。

## (2) 図書館の機能

何れの時代にも図書館の役目はまず蔵書の確保と読書の場の提供であろう。学生のための教科書・参考書・演習問題集等、研究者のための書籍と資料、学理を説く古典的名著、日新月歩の内容を盛った学術雑誌、報告書、新聞等の供覧が必要である。図書館には情報センターとは異なり時代を画した文化的遺産の確保や民族博物館的ならびに郷土史料館的要素も求められよう。そしてそれらを閲覧する場と勉強の部屋そして集会室が不可欠である。

これからの時代は思索の場がいっそう必要になるので図書館はそれにふさわしい場所であるし、それに適した雰囲気が必要である。図書館は若人を育てるのにもっとも大切な場所の一つとなるだろう。ただし堅苦しいことが嫌いなむきには郊外型大型書店のようにぶらっと立ち寄って新着雑誌をぱらぱらとめくってもらう場所であってもよいし、サロン風の気楽な勉学の場、さらにデートの待ち合わせ場所として利用してもらっても悪くはない。

学術的情報センターとしての機能はこれからの時代には不可欠であり、これについては次項に譲る。

## 2 節 情報図書館

### (1) 学術的情報センターとしての図書館

昨今、図書館にも時代の波が押し寄せてきた。情報だの、検索だの、電子だの、データベースだのと何やらせわしくなって閲覧室でゆっくり読書に耽る雰囲気ではなくなってきた。書店においてもインターネット書店と称して通信販売が盛んになってきた。図書館も書物や資料の内容の電送化や図書館相互の

連携、つまりインターネット図書館の時代になってきた。

多くの研究者は図書館に学術的情報センターとしての役目を期待している。学術審議会においても図書館の果たすべき重要な役割の一つに学術情報システムが位置づけられている。いわゆる電子図書館としての機能である。しかし図書館の役割が単なる文献の取り寄せや情報提供サービスだけでは情けない。文献検索や論文の入手だけなら図書館でなくても文字どおり個人のパーソナルコンピュータでことが足りる時代に入っている。今や図書館では電子図書館や資料館として図書供覧や文献検索だけではなく、多方面でよりよく機能するための研究を進めなければならない。利用者のための各種コンピュータなど様々な設備の拡充も重要である。また専門領域によって研究方法が異なるので各研究者に効率のよい情報検索の進め方などを指導することも必要である。

## (2) 紙の書物の利点と問題点

一般に物事は手許にないと意味がないので手に取って見ることが容易な紙でできた書物の良さも認識したい。古書などはかび臭いところがよいのである。また印刷物の利点はキーワードなしの検索、分かりやすくいえば図書館の雑誌棚での無作為閲覧もできる。書庫の書棚の前で立ち読みができるのも紙の書物のありがたさである。

書物を読む作業は、人間の眼の立場からいえば反射光を見ることになる。コンピュータのモニターから出てくる光は直接光である。この性質の全く異なる二つの光線の眼に与える作用の違いが、将来、人類にどのような影響を与えるのか誰も分からない。

マイクロフィルムもよいがやはり印刷物の方が年配者にはありがたい。本格的な電子辞書といえども本物の辞書にはかなわない。

一方、印刷物にも迅速な情報という点では新着雑誌といえども問題がある。研究成果の熾烈な先陣争いが繰り広げられているような学界においては、各研究分野の先頭集団を形成する全世界でおそらく各グループ数十人の研究者は図書館で悠々と新着雑誌を広げているなど考えられない。つまり第一線の研究者は自分の研究領域について関連雑誌の次号の掲載内容ぐらいいは推察できるのである。そのような領域では新着雑誌は自分の着想やデータが既に他人に越されてしまっているかを確認するぐらいいの意味でしかない。

### (3) 情報の収集・交換・分析のあり方

この問題は情報のやり取りの場が個人対個人、組織対組織、あるいはそれらの組み合わせにおいて異なるべきものである。例えばサッカーワールドカップの何かについて緊急に知りたい場合、熱帯から帰国した団体にコレラが発生した際の感染源を知りたい場合、近隣における新興感染症や病原性大腸菌症の発生状況を知りたい場合などは図書館の新着雑誌も情報センターのコンピュータも役に立たない場合がある。政情不安定な国へ旅行する場合、自分が訪れようとする地域から帰って来た人に聞くのが一番である。「生の一口情報」である。

### (4) 文献検索サービス

文献検索サービスについて筆者にも忘れ得ぬ思い出がある。筑波大学情報処理センターから癌重点研究国際情報班（班長中山和彦教授）の世話により、ある熱帯の腫瘍疾患に関連する文献抄録を数年間にわたって享受した。座して情報を得ることができた。

東京の某タクシーのなかに情報サービス会社の広告パンフレットが置かれている。主要新聞、週刊誌、雑誌類から申込分野の記事を抽出して毎朝届けるというものである。「インターネットから必要な情報を探すのに苦勞をしておませんか」、「毎朝あなたが望む必要情報を35紙の新聞からセレクトしてお手元のFAXに朝一番に、自動送信します」というものだ。しかも画一的な抄録ではなくそのまま切り抜きの形で。大汗をかきながら積み重ねられた新聞を読んでいる男に向かって女性秘書が「部長！もう会議が始まっていますよ」と声をかけている漫画がついている。

## 3節 地域と大学図書館

### (1) 長崎大学附属図書館

長崎大学図書館は中央図書館、経済学部分館、医学分館等からなっている。図書館には高度な電子図書館化を実現することを目的とした研究組織として、各学部の精鋭からなる研究開発室を平成10年4月から設置されている。図書館ではここ数年、所蔵する数千点の幕末・明治期の古写真、数百点のグラバー図

## 5章 地域における図書・情報システムの拡充—(大学図書館を中心として)—

譜、学内の研究報告や紀要などのデータベース化を実現してきた。またそれらをインターネットによる世界に向けての公開を行っている。長崎市中における古写真展は市民から大好評を得ている。西暦2000年、長崎県等が催す日蘭交流400年事業およびそのイベントなどにも参画している。図書館では中央館、経済学部分館、医学分館ともにここ数年、確実に充実化の一途をたどっている。入退館システムの完備、図書時間外返却ポストの設置、大学附属病院の共同図書室の24時間開室システム等が設置されている。空調設備、学生諸君のためのパーソナルコンピュータの増設、試験期間における開館時間の延長、コピー代金の低価格化、各種書籍、ユニークな歴史的資料、上述のごとく古写真のデータベース化など、細部にいたる各種充実と維持管理が着実に進められている。さらに古写真展示、グラバー図譜の集積、ライデン大学との交流など枚挙にいとまがない。平成11年11月からはCNNテレビ放送受信が開始され、外国からの留学生や語学研修生などに喜ばれている。これら数々の実績はひとえに図書館事務部を中心に大学本部事務局、各学部事務部や同窓会の尽力の賜物である。中央図書館、経済学部分館、医学分館それぞれに期待される機能が異なるので、常にそれらの運営システムの整備・拡充・調整がなされている。

このように図書館では限られた予算や人員削減にも拘わらずより高度な図書館を目指して図書館職員による日夜懸命の努力が続けられている。学生諸君から図書館で飲食したいという要望がある。バイオリニスト吾藤みどりさんの米国での大学生活をビデオテープで見ると、たしかに学生達は図書館のなかで飲食しながら勉強(?)している。休日開館や夜間開館時間のさらなる延長などの要望もある。利用者へこれら欧米並みのサービスを行うためにも、図書館における定員削減による人手不足は深刻である。

今後図書館の建物の段階的整備も必要である。図書館の機能からみると本質的なことではないかもしれないが読書や思索の場としてのムードが必要である。

何でも欧米では図書館を中心に発達してきた大学は珍しくなく、それらにはハーバードのように一流の大学が多いそうである。大学人の図書館の重要性の意識の度合によってその大学の程度が決まるのである。長崎大学における教職

員の図書館の認識は近年とみに強くなり、学内における図書館の位置付けの向上がなされつつある。

## 4 節 地域における図書館

### (1) 『地域環境の創造』

さてここで新たな研究課題として「地域における連合図書・情報システム」なるものの構築を企画研究として考えてみたい。長崎県におけるこの種の既設組織としては後述の「長崎県大学図書館協議会」があるが、地方公共団体などを仲間を含めて幅を拡げ、情報システムなども加味した組織を試案することにする。

#### ① 研究目的

近年、図書あるいは情報関連施設が大学をはじめとする機関や団体に設置され、相応の人員と設備が配置されてそれぞれ有効に機能している。しかし予算問題、人員数の不足、社会的連携問題など、各種要因によって必ずしもユーザーのニーズに完全に対応できているわけではない。また近い将来にわたって、それぞれの施設が各個に完全な人的ならびに物的な装備を持つことは困難であることが予想される。

このような現状のもとに、長崎県において各大学、地方公共団体、その他の組織に所属する図書館関連施設など、既設の機関（施設）における人的資源（マンパワー）と設備を、できるだけ現状のままで（とくに多額の予算を投入することなく）それぞれ特徴のある機能を生かしつつ、相互の連携により稼働能力を有効に活用し、住民に密着した活動および成果をあげることを目指した、「地域における連合図書・情報システム」を樹立することを目的とする。

本研究の着想によるシステムは、地域の各施設の単なる形態的な繋がりのような「体制」とは本質的に異なる。また従来型の共同研究、機関（施設）間の協定とは異なり（特定のプロジェクト課題をかかげた研究組織ではなく）、地域の要求による流動的課題に対応できる研究機能を持ったシステムを考える。このシステムは既存の図書・情報システムを活かすソフトウェアが中心であって、新たな設備を設置するなどの大規模な予算化を主たる目的とするものでは

## 5章 地域における図書・情報システムの拡充—(大学図書館を中心として)—

ない。

本研究は構成メンバーの各施設が、これまでに培ってきた地域的な図書・情報関連の事業運営のノウハウを以って既設の施設や設備をより有効に機能させるためのシステム開発に向けた研究である。

### ② 研究計画

下記の各項について企画調査を行う。

- 1) 構成メンバーの各施設の活動能力とシステム運営上の付帯条件を把握する。

これには以下の諸点が含まれる。

- ・これまでの活動成果および現在の活動内容とその評価
- ・現在の人的資源、活動方法と技術、専門的知的水準、共同活動カウンターパートとしての能力
- ・資料等の供給性
- ・予算の調達
- ・稼働可能な現有設備、備品、供給可能な消耗品

- 2) 地域における参加・協力施設を確認する。

- 3) 恒常的なシステムとして、維持管理のための連携、運営方法を検討する。

これには以下の諸点が含まれる。

- ・共同活動実施に関する方法論的な各種規則の設定
- ・地域のニーズに合わせた全システム共通の実行可能な活動課題またはプロジェクトの設定

- 4) 各施設におけるマンパワーを有効に生かす方策、各施設の設備の有効な利用方法、各施設から特徴的な、資料、方法を提供する方策などを考える。

- 5) 全システムにおける資料等の流通化と有効利用の方策、情報の集積とアクセスの促進方法、人的資源の省力化および予算の有効な使い方の方策を考える。

- 6) 参加者交流のための旅費、交通、通信費の算定と節減方策を考える。

- 7) 予算の調達と節減の方策を考える。

総合討議によって、地域の施設を選定し、連合図書・情報システムの開発計画を作成する。

## (2) 地域への貢献

### ① 地域における組織

#### a. 長崎県大学図書館協議会

本会は長崎県内の大学図書館、短期大学図書館および高等専門学校図書館の相互の連携と協力を図り、県内大学図書館の充実と発展に寄与することを目的として結成された組織である。その事業として図書館に関する調査および研究、研究会、研修会の開催、県内大学図書館の相互協力の推進、関係団体との連絡および連携などである。平成7年に発足した組織であるが、長崎大学が代表幹事校になり、現在までに毎年2～3回の講演会、研修会開催をはじめ加盟館相互の利用手引書の作成、ホームページの開設などを行っている。

#### b. その他の組織との関連性

県外における各種図書・情報関連組織、国際学術研究組織、各大学研究グループ等、また国外では欧米諸国、開発途上諸国を問わず同様組織や施設等と連携する。

### ② 一般社会人へのサービス

その国の図書館の状態、人々がどんなふう利用しているかをみればその国の文化の程度が分かるのである。すなわち図書館は文化の象徴である。一般社会人の読書の手助けは図書館の大切な役目の一つであり、実際に図書貸し出しサービスなどが行われている。

最後に地域社会との関連性として、図書館は生涯学習の場として期待されており、それに応えるべく努力をしなければならない。